

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 大口 弘 和
 幹事 谷口 優
 会報・雑誌委員長 山本 英次

No. 30

慈愛の種を播きましょう Sow the Seeds of Love

2002~2003年度 RI会長 ピチャイ・ラタクル

きょうの例会
 第987回 平成15年 3月18日(火)

講演 “子供虐待の現状”

子どもの虐待ネットワーク・あいち
 常務理事 田島 淑子さん
 (紹介 吉田(玄)君)

先週の記録
 第986回 平成15年 3月11日(火) 晴

◆“それでこそロータリー”

◆出席報告

会員	70(65)名	出席	49名
出席率	75.38%		
前々回	2月25日 (修正出席率)	100%	

◆ゲスト紹介

名古屋音楽大学 教官 ジョバンニ・ニウディ氏

谷口幹事報告

1. ロータリー館建設協賛チャリティーコンサートのご案内が来ておりますが、当クラブより石黒君と大谷君が参加されますので、是非皆様ご出席をお願い致します。

米山功労者・ファンドフェロー表彰



米山功労者として小山君・佐久間君にメダルと盾、
 ファンドフェローとして山田君に感謝状が手渡されました。

◆ロータリーの友2月号より

竹内(眞)雑誌・会報委員

昨年の地区大会でRI会長代理としてスピーチなさいましたパストガバナーの佐藤千壽氏の講話が“泥中の蓮”として要約、掲載されており、会員増強委員長としても絡んだ内容となっていますので、ご紹介させて頂きます。(P7 “質を良くすれば数も増える”を朗読)

大口会長挨拶

日・米の健康感の比較

日差しは毎日に春を感じさせ暖かくなりましたが、風が強くまだまだ寒い日が続きます。皆さん風邪にはお気をつけ下さい。

今日の講演はイタリア人ジョバンニ氏で、先程、オペラの「ドン・ジョバンニ」と同じお名前ですネと話を致しましたが、後程宜しくお願い致します。

日本人の理想的な死には「ぼっくり逝く」ことで、アンケート結果では40歳以上の男性が97%、女性では87%がぼっくり願望を持っているということでした。

日本と欧米の死生観の違いによると、ぼっくり逝く死には欧米では恐怖の対象で理想的な死には、余命を知らされ、残された日々は人生を振り返り家族や友人と過ごすというものです。日本は逆に余命を知られることは恐怖として受け止められているようです。この違いは宗教や個のあり方、家族のあり方、個と社会の関係、死に対する教育などの違いが考えられ、まさに文化の違いであります。

アメリカの健康をつくる運動「ヘルシー・ピープル」の思想では、太った人、タバコを吸う人、強いアルコールを飲む人は自己管理能力に欠けるとして出世できないといわれ、極端な話として「医療とは労働力の再生産である」と定義した人がいると聞きます。

わが国の医療制度改革における論議の中に、「先の短い老人に高額な医療費を使うより、そのお金を未来のある若者のために、例えば新しい産業の創出に使ったほうが良い」と考えている人がいると聞きます。世界最高の平均寿命と健康寿命を達成している日本だが、高齢者の生命を軽んずる社会に若者が未来に希望をもって行けるのでしょうか。

◆講演

“私の日本生活”

名古屋音楽大学 教官 ジョバンニ・ニウディ氏
(紹介 山本(眞)君)



日本に来る前に色々な本を読んだり写真を見たりしていたから心の準備ができていたと思うのだが、やはり日本で生活してみたら本に書いていないことが多いと実感した。最初の夜は、ある大阪のホテルだった。部屋に入ったらとてもきれいな部屋でベッドも広くてエアコン付き、大きなテレビもあった。トイレに入ったら便座にたくさんのボタンがついていて驚いた(イタリアでは便座はとてもシンプルで、ボタンがついてない)。さすが日本だな!と思って笑い出した。日本人のイメージの一つは、細かくて小さいものが好きということだ。たとえば日本製のビデオカメラはとても小さくて機能がたくさんある(よけいな機能も)。飛行機のコックピットみたいにボタンいっぱいをついた便座はまさにそのイメージにぴったりだった。確かに気持ちがよかったけど。テレビを見ようと思って、立派なテレビ画面の横に赤いボタンがあることに気づいた。押しはいけないだろうと思ったがイタリア人だからいけないことが好きで押した。ぼかしのついたポルノビデオ。ボタンのついた便座とビデオのダブルパンチ(プラス時差ボケ)で僕はノックアウトだった。日本は不思議な国だなあと思いながら寝付いた。

ある夏の日、おなかがすいてコンビニで寿司を買って家に帰ってビールをだして食べようとしたらなにか変な臭いに気づいた。納豆寿司だった。僕は納豆を知らなくて多分腐っているだろうと思って、おなかがすいていたのに全部捨ててごみ箱もドアの外にだした。そのあと、ある日本人の友達の家で食事に誘われて、とても美味しい食べ物の中でその納豆寿司の臭いと同じ臭いがしていたビーンズみたいなものがあって“それは納豆だ”と説明された。食べてみたら美味しかった。友達もとってもびっくりしたらしい。外国人が納豆が好きだということはとても信じられないと言っていた。そのとき以来、何回も色々な人に“日本の食事はどうですか?”と聞かれ僕はとても美味しいと思うし、特に刺身のファンで、いつも熱心に説明する。“刺身も食べれる?”いつも相手は驚く。“じゃあ、納豆は?”と聞かれると“納豆も好きだよ”と。“理化学研究所の食堂で朝でもよく食べるよ”と答える。ここで相手はもっと驚き、えええ???納豆も食べれ

る?すごいね!と言いながらちょっと不安な顔をする。やっぱり外国人が納豆を食べれるのなら、日本はそんなにユニークな国ではないなあと感じてしまうみたい。僕はよく感じたことだが、多くの日本人は日本という国はとてもユニークな文化を持つと思っている。外国人がこのユニークな文化を理解することが無理みたい。このような態度は色々な場面で見ることができる。例えば日本語でしゃべっているのに日本人の相手は英語で答える。このような経験は日本語を話せる外国人には毎日のことだ。あるテレビのコメンテーターは“日本語べらべら外国人が気持ち悪い”とまで言っていた。納豆もいっしょだ。納豆を食べる外国人がいたら不安になる。やはり日本の国際化のために外国人がよく納豆を食べた方がいいかな?

“イタリアにはゴキブリがいますか?”“いますよ!ただ動きが遅いため殺しやすい。日本のゴキブリは早いなあ。”このようなことを言うと、いつも日本人の相手が笑い出す。“イタリアのゴキブリ遅いんだ!スパゲッティばかり食べているだろう!”と思っているでしょう。

駅で“発車が30秒ぐらい遅れます。お忙しいところご迷惑かけまして誠に申し訳ありません”。何回もこのようなアナウンスを聞いたことがあるが、また僕は驚く。たった30秒で!イタリアでは発車が30分遅れても当然なことだ。日本の電車は好きだなあ。ちょっと高いけど。

理化学研究所でSTAフェローとして研究をし始めたのは1997年の12月でした。STAからのサポートは最初からとてもよかった。ハウジングのことでつづばのJISTECの人たちには何回もお世話になった。自分で好きな部屋を見つけようと20軒ぐらいの不動産へ一人で行った。外国人だから不動産に入るといつも店員は困った顔で僕を見て、“あのう…ここは外国の人は…”と言い出す。そこで“科学技術庁法人契約ですが”というと店員の表情がとても明るくなり“ああ、そうですか、そうですか、どうぞおかけになってください”と言いながらすぐいい物件をだしてくれる。面白かった。結局JISTECのお陰でとても居心地のいい部屋をみつけた。

日本での12年は長いような短いような感じがして、本当に色々あったが僕は日本が好きだ。最初は留学生として、そしてpostdocとして様々な人と出会った。優しい人がほとんどだった。日本に来てよかったと思う。でも時々感じたのは、多くの日本人が“結局外国人はいずれ自分の国に帰るからほっといていいでしょう”と思っているみたい。やはり自分が外人と感じさせられる。日本に長い間住んで日本は故郷みたいな感じがしてこの不思議な国にずっといたいと思っている外国人がたくさんいるということをもみんなに理解していただきたいと思う。

◆ニコボックスは次回掲載と致します。

◆次回例会(3月25日)

友愛の日